

2016年度(平成28年度) 北京教育交流訪問報告書

北京市教育交流推進事業(9年次)

教育交流推進事業の趣旨

本市と北京市教育委員会との間で、中・高校生及び教職員の相互訪問による教育交流を行うことにより、生徒が国際的視野や感覚を身に付けるとともに、生徒を指導する立場にある教職員が互いの国の教育等について知り合うことで、国際理解を図る。

訪問の目的

- 教育交流をとおして、自己の目標や学習に対する姿勢を振り返るとともに、訪問後の展望を持つ。
- 中国の文化等に興味・関心を持つとともに、国際的視野に立って、相互理解を深める。
- 福山市の代表としての自覚を持つとともに、福山市や日本の文化等について正しい知識を持ち、相手に理解されるよう努める。



日程 2016年(平成28年)12月24日(土)～28日(水) 4泊5日
訪問団 中高校生 20名・教職員 5名・事務局員 4名
訪問先 首都師範大学第二附属中学校 魯迅中学校 国家漢弁
天安門広場・故宮博物院 万里の長城 王府井 他

福山市・福山市教育委員会



教育交流

首都師範大学第二附属中学校
魯迅中学校

〈授業参加～英語～〉



授業は All English で行われていた。中学1年生でも英文を書いたり、英会話をしたりしていて、英語力の高さに驚いた。また、生徒は積極的に手を挙げ、恥ずかしがらずに意見を堂々と発表していた。その姿勢を見習いたいと感じた。(中2)

北京の生徒は、一人一人が明確に夢や目標を持ち、その目標に向けて頑張る気持ちだが、高い学習意欲につながっていた。(中1)



生徒たちが、私語もなく、堂々と意見を発表する姿、自分の意見を英語でまとめて言えることに驚いた。その姿から、「成長したい」という強い意志を感じた。強い意志があるからこそ、高い英語力が身に付くのだと感じた。(中1)



どちらの学校にも、自分の意見を述べる場面があった。読み取った文章や動画から、「どうすればもっとよくなるのか」「自分ならどうするか」と想像力を引き出すような授業だった。スピーキング力の高さの理由の一つだと感じた。(高2)

授業では、レポートを発表するなど、積極的に自分の意見がみんなに伝わるよう一生懸命発表していた。一つ下の学年とは思えず、驚いた。(中2)

交流した2校に共通していたことが、授業の終末に自分の意見を持たせる発問があったことである。中国の生徒は、短時間で自分の考えを英語で書き、全体に伝えていた。これが毎時間の学習の流れであると感じた。

将来、児童生徒が、変化の激しい社会をたくましく主体的に生きていくためには、自分の考えを持ち、伝える力は重要である。授業において、その力の育成につながる場を設定することが効果的であると考え。(教諭)



〈授業参加～書道～〉



中国と日本とでは、筆の持ち方が、全く違うことに驚いた。隣に座っていた中国の生徒が、何度も丁寧に筆の持ち方を教えてくれた。(中1)

書道の授業で「春」という漢字の成り立ちについて教わった。一つの漢字でもたくさんの意味があることを学び、改めて漢字に親しむことができた。(中1)



中国の生徒は、自国の文化、言語、教育などに誇りを持っており、自分たちのことがよく分かっていると思った。もっと日本や福山のことを知りたいと感じることができた。(高2)

〈生徒発表〉



〈伝えるテーマ〉

- 「日本の伝統・文化」
- 「日本の世界遺産」
- 「福山の伝統・文化」
- 「学校生活」

〈合唱〉

SMAP：「世界に一つだけの花」（中国語 ver.）



僕のグループは、「福山の伝統・文化」をテーマに、主にバラやローズマインド、鞆の浦について発表した。みんな興味を持って、聞いてくれたので嬉しかった。（中1）

〈生徒交流〉

中国の生徒は、とても熱心に授業に臨み、自分の意見を言う姿はとても堂々としていて、かっこよかった。僕も勇気を出して英語で話しかけてみたが、会話が続かなかった。ジェスチャーを交えることで、少しずつ伝わったが、コミュニケーションの難しさを実感した。（中2）



昼休憩に、北京の生徒とバスケットボールをして遊んだ。とても楽しくて、最後は、握手をした。私は、言語を学ぶことも大切だと思うけれど、スポーツを通してコミュニケーションがとれ、仲を深められると実感することができた。（中1）

昼休憩にグラウンドで卓球やバスケットボールなどのスポーツをした。その時、ルールなどを英語やジェスチャーで一息懸命伝えようとしてくれた温かさに、嬉しさと感動を感じた。（中2）

プレゼント交換のとき、手紙をもらった。そこには、日本語と中国語で「中国へようこそ。勉強を頑張っているあなたが好き。」というメッセージが書かれていた。北京の生徒の温かい心に触れることができた。（中1）

〈教職員交流〉

北京の先生方との交流の中で、「将来、海外で仕事をしたい、〇〇学校で学びたい、海外に留学したいと思っている生徒が多い。」と教えていただいた。児童生徒は、将来の自己像を明確にイメージしているからこそ、主体的に学ぶことができるのだと感じた。児童生徒に小学校・中学校の段階で、将来なりたい職業を考えさせたり、「こういう人間になりたい」という目的意識を持たせたりすること、つまりキャリア教育をより一層充実させることで、主体的に学ぶ児童生徒の育成の一步につながると感じた。（教諭）



未来へ向けてすべきこと

広島県立戸手高等学校 2年 佐藤 穂奈美

今回の訪問で、北京の生徒の英語力に驚かされました。また間違いを恐れず積極的に手を挙げ発表している姿がとても印象に残っています。だから、これから自分も中国の学生のように間違いを恐れず積極的に物事に取り組める人になりたいと思いました。

そして、北京の学生との交流で「もっと英語が話せたらたくさん意見交流ができたのに」と、少し後悔が残りました。これからは、英語の勉強に力を入れていこうと思います。この交流を通して自分がすべきこと、もっと伸ばせるところに気づくことができました。この交流は、私にとって、とてもいい経験になりました。

私の決意

福山市立内海中学校 1年 杉本 陽菜

私は今回の北京教育交流訪問を通して、自分が成長するためには、学ぼうという強い決心が必要なのだと思います。北京の生徒の姿から、授業のときに多くのことを学びたい、自分のレベルを高めたいという強い意志が伝わってきました。積極的に手を挙げて、一生懸命に友だちの意見や先生の話聞いていました。北京の生徒は、英語がきちんと話せない私に、自分たちの意見を一生懸命に伝えようとしてくれました。また、北京の生徒たちは、家庭学習の時間が1日4時間ということにも驚きました。やはり努力をすれば結果は出ます。最後まであきらめないということはこの先、どこでも必要になると思います。だから、今の私には授業中の態度をよくすること、英語の力を身に付けること、あきらめないことが必要だと思いました。

未来に向かってはばたくために

福山市立内海中学校 1年 村上 優花

今回の教育交流を通してこれから頑張っていきたいことを二つ見つけることができました。

一つ目は、積極的に手を挙げて自分の意見をしっかり言うことです。北京の生徒の授業を受ける姿を見ていると、手を挙げるとき、「自分から！」という思いが強く感じられました。その積極性こそが、私に足りない部分だと思ったので、しっかりと意見を言えるように頑張っていきます。

二つ目は、世界でも通用する英語力を身に付けることです。英語の授業に参加した際に、レベルの高さに圧倒されてしまいました。しかし、日々の努力次第で変わることができるのではないかと考えました。一日に一回、英語のみの会話の時間を作るなど、自分自身がレベルアップしていける工夫をしたいと思いました。これから将来に向けて、さらに国際的視野を広げていきたいと思っています。

これからの私

福山市立済美中学校 2年 三原 日桜

私は、この5日間でいろいろな壁にぶつかりました。中でもいちばん大きかったのは「言葉の壁」でした。最初は、言葉が分からないから話せないと思っていました。しかし、それは間違っていました。話せないのは、自分から話そうとしていない、関わろうとしていないからでした。私は今回の体験で「言葉の壁」を乗り越えるには、お互いが相手を分かり合おうとする気持ち、話が通じなくてもあきらめない気持ちが大切であることを発見しました。そして、それを乗り越えた先には、とても楽しい世界が広がっているということも発見しました。

授業参観を通して ～「教科と社会を関係させて、主体的に学ぶ生徒を育てる！」～

福山市立内海中学校 教諭 葛西 祐介

今回の訪問では、2つの中学校で、1年生の英語の授業を参観した。日本の中学校における英語の授業とは、システムが異なるため一概に比較はできないが、北京の中学生の英語のレベルが高いことに驚いた。また、生徒が興味・関心をもって主体的に学んでいる姿が印象的であった。

授業は、「コーヒー文化」というテーマで、スターバックスを題材に進められた。まずは、英文を読んで、生徒に文章の大まかな構成をつかませ、段落に書かれていることを少しずつ理解させていった。そして、この文章は、「スターバックスが抱える問題」に関して記述されており、この問題に対して生徒たちの考える改善策を発表するものだった。「低品質で安価なものにする」、「ネット販売をする」、「中国の古い建物を活用し、それぞれ違った雰囲気になれば面白い」、「缶コーヒーなどに加工し、手軽にコンビニなどで買えるようにする」などの発表があった。自分たちの生活に関わる身近な問題だからこそ、意欲的に活動しやすいのだと感じた。

また、別の授業では、「3人の僧侶」という中国の言い伝えを基に、単語の意味を理解させ、文章の大体をつかませ、英語の字幕付きの映像を見せる内容だった。こちらの授業も、生徒に興味を持たせやすい視覚教材を用いたり、生徒自身に「自分たちのグループなら、どう解決するか」と考えさせたりするものだった。各グループは、身振り手振りを交えて説明したり、絵に描いて伝えたりしていた。ある生徒は、緻密なデータをもとにプレゼンテーションを行っており、感心させられた。

2つの授業に共通していることが、生徒の身近な題材を扱いながら、自らの考えを発信し、ただ英語で授業をするだけではなく、英語という教科を越えた複合的な学びになるように仕組まれていた。そしてそこには、教師が日々研鑽を積み、生徒たちに理解させたい、力を付けさせたいという想いがあったように思える。

日々の授業を大切にすることを教えてくれた北京教育交流訪問

福山市立神辺中学校 教諭 名高下 嘉奈

北京市の先生が、授業で使う英語の量とスピードに驚いた。All English であるとは聞いていたが、授業中の指示、発問、説明の全てがスピードのある英語で進められており、想像以上の内容に圧倒された。そして、生徒は、先生が発する英語を理解し、質問に答え、反応していた。先生が英語を繰り返すのは、意見がすぐに出ないときのみで、基本的に同じ英語を繰り返して言うことはない。生徒は、1回で英語を理解し、授業はどんどん進んでいく。中国の英語教育は、小学校1年生から、場合によっては幼稚園のときから行われていると聞いた。しかし、今回体験した英語授業のレベルの高さを「早期英語教育の結果」という一言で片づけることはできない。日々の授業の中で、大量の英語を生徒にインプットすると同時に、アウトプットさせる工夫と、それに応える生徒の実態があつてこそだと思った。

教員交流の中で、先生の英語力向上のために何を行っているかを質問したところ、「授業では中国語は禁止されている。生徒にスピーチ活動させる前に、先生が手本を見せる。こういうことを通して、先生の英語のレベルも上がる。」といった回答だった。つまり、日々の授業実践を通して、先生も力を付けてきたということである。大切なことは、一回一回の授業にどれだけの信念と目的意識をもって挑むかということだと改めて感じた。更に、生徒のやる気を引き出すための工夫に関する質問に対して、「世界の映画、アニメ、歌等、様々なものに目を向けて、時代（流行）に合うものを授業に取り入れている。生徒の想像力を大切に、それを生かせる材料を探している。ただし、目的のない発想はだめであり、テーマを大切にしている。」との回答だった。日頃から生徒に触れさせたい英語を探し、生徒が興味、関心を持つことができる教材、考えるためのテーマの発見などを、教師が積極的に行っている姿があつた。意識の高さが、教師の英語運用能力を高め、それが生徒に還元されていることを感じた。

歴史・文化体験

天安門広場・故宮博物院
万里の長城 国家漢弁
中国茶体験 王府井 他

天安門広場では、早朝、気温が低かったにも関わらず、大勢の人が行列を作っていることに驚いた。天安門を目の前にして、教科書に入り込んだ気分になり、中国にいるのだという実感がわいた。(高1)



万里の長城がずっと続いている姿を見て、史上最大の建造物を実際に見て、触れることができると思うと胸が踊った。(中1)



バスから見えた万里の長城は、険しい山が連なっており、山の上にとっても長く、どこまでも続いている階段に何百年もの歴史を感じた。(中1)

万里の長城の迫力は、想像をはるかに超えていた。万里の長城は、全長6,259.6kmで、福山市役所の高さの約104,327倍である。日本の長さの2倍以上もある。万里の長城では、一步一步自分の足で中国の文化に触れることができた。(中2)



国家漢弁では、日本では見たことのない伝統的な衣服や楽器が多数展示してあり、中国の文化や歴史について知ることができた。華やかな印象の衣服は、日本の着物と似ているところもあった。(中1)

北京を訪問したことで、より中国を身近に感じられるようになり、以前より中国に関心を持ってテレビなどを見るようになった。私は、北京の楽しかった思い出と、出会った人たちに親切にいただいたことを忘れない。この体験をきっかけに、もっとたくさんの国に行き、たくさんの人や歴史、文化に触れたいという思いが強まった。(中1)

中華料理には、必ず「お茶」が出された。中国では、昔からお茶を飲む習慣があり、そのため、お茶の種類もとても豊富で、種類によって効能が違うことを学んだ。(中2)



中国の歴史や文化を肌で感じる中で、特に印象に残ったことの一つが食文化だ。5日間の食事では、色とりどりの料理が並び、円卓をみんなで囲み、取り分けて食べた。円卓で食べると会話も弾み、和気あいあいとした雰囲気となった。家族を大切にし、人間関係を重んじる中国文化が、円卓に表れていると感じた。(中2)



事前学習会



訪問前に3回、訪問後に2回の学習会を行いました。事前学習では、北京の中学生たちに、福山の魅力、自分たちの学校生活などを紹介するため話し合いを行い、練習に取り組みました。

また、福山大学孔子学院の辺先生、魯先生、孫先生から中国語の挨拶や具体的な発音の仕方などを指導していただきました。

訪問の行程

24日(土)	25日(日)	26日(月)	27日(火)	28日(水)
出発の会 福山発 広島空港発 北京首都国際空港着	天安門広場 故宫博物院 万里の長城 雑技団鑑賞	首都師範大学 第二附属中学訪問 首都師範大学訪問 夕食会	魯迅中学訪問 国家漢弁表敬訪問 王府井 答礼レセプション	中国茶体験 北京首都国際空港発 広島空港着 福山着 解散の会



報告会

2月18日(土)、福山市役所大会議室において「北京教育交流訪問団報告会」を行いました。生徒20名と、教職員代表の西小学校 藤田和也教諭、蔵王小学校 中尾綾夏教諭が、教育交流や歴史・文化体験を通して学んだことを報告しました。



「中国の歴史・文化体験からの発見」「教育交流を終えて、今」「未来に向かって」をテーマに、教育交流を通しての発見、帰国後の取組、将来への展望など、一人一人の学びや決意を述べました。

教職員代表の先生は、「学習意欲の向上のために」をテーマに、教育交流を通して学んだ授業改善の視点や、帰国後の実践の具体について報告しました。



枝廣直幹市長から、生徒・教職員の発表を受け、「外に目を向ける大切さ、福山市民の代表としての自覚、交流における思いが伝わってきました。」と講評をいただきました。

教育交流訪問団派遣状況

単位(人)

		2008年度 (平成20年度)	2009年度 (平成21年度)	2010年度 (平成22年度)	2011年度 (平成23年度)	2012年度 (平成24年度)	2013年度 (平成25年度)	2014年度 (平成26年度)	2015年度 (平成27年度)	2016年度 (平成28年度)	合計
派遣人数	生徒	20	22	20	20	19	20	20	20	20	181
	教職員	10	12	10	8	8	9	6	5	5	73

北京市教育交流事業の経過



2007年(平成19年)

- 5月 広島大学北京研究センター長佐藤利行教授を通じて、北京市教育委員会劉利民主任から教育交流の提案を受ける。
- 8月 福山市教育委員会担当者が、北京市教育委員会を訪問し、意見交流及び情報収集を行う。
- 10月 羽田皓市長、小丸法之渋谷育英会理事長、蔵本久市議会議長、高橋和男教育長他7名が訪中
福山市教育委員会と北京市教育委員会との教育交流等に関する覚書締結
◇帰国後の市長会見骨子◇



- 本市と北京市の中学生・高校生や教職員の交流を進めていく。
- 次代を担う若者が隣国との交流をとおして、国際的視野や国際感覚を身に付け、国際社会の中でたくましく生きる力を付けることを期待する。

2008年(平成20年)

- 4月 北京市教育交流事業【中・高校生派遣】【教職員派遣】募集要項策定
北京市訪問団派遣費補助基準策定
- 7月 現代の中国画と日本画展 ふくやま美術館 3,844人入館
- 12月 北京市国際教育交流センター・北京市大中中学校国際交流団 21人表敬訪問
第1回北京教育交流訪問団派遣(24日～28日 中・高校生20名、教職員10名)
・訪問先：北京市教育委員会、海淀実験中学校、北京市西城外国語学校
・見学先：天安門広場・故宮博物院、天壇公園、万里の長城、北京動物園等
- 2月 報告会開催 166名参加
- 3月 報告書300部作成、関係者に配付

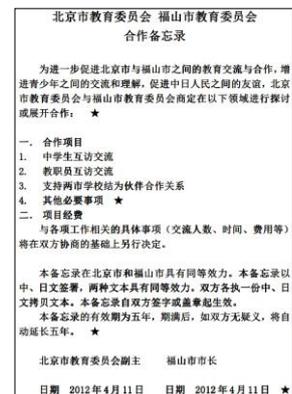


2009年(平成21年)～2011年(平成23年)

- 12月 第2回～第4回北京教育交流訪問団派遣
- 2月 報告会開催
- 3月 報告書300部作成、関係者に配付

2012年(平成24年)

- 4月 北京市教育委員会何勁松副主任、首都師範大学附属中学金晓莉副校長他1名が市長表敬
福山市教育委員会と北京市教育委員会との教育交流等に関する覚書を再締結
- 12月 第5回北京教育交流訪問団派遣
- 2月 報告会開催 150名参加
- 3月 報告書300部作成、関係者に配付



2013年(平成25年)～2015年(平成27年)

- 12月 第6回～第8回北京教育交流訪問団派遣
- 2月 報告会開催
- 3月 報告書300部作成、関係者に配付



2016年(平成28年)

- 12月 第9回北京教育交流訪問団派遣
- 2月 報告会開催 105名参加
- 3月 報告書300部作成、関係者に配付